

社会共創コンテスト 2018

1 地域課題部門

徳島県三好市西祖谷山村徳善地区大歩危駅周辺の 観光・体験コース開発の取り組み

～徳善地区の妖怪たちと徳島市内の高校生が天空でつながる～

徳島県立城ノ内高等学校 JRC 部

2年 栗飯原美里 漆原未奈 久米佳奈恵 中崎優花 阿部友優 原田紗和
堀江菜々
3年 高井彩有 落合彩月

1 研究テーマ設定の経緯

～徳島市内の高校生が天空の村の方々と関わるようになるまで～

○私たちのこと

私たちは徳島県徳島市にある普通科の高等学校のJRC部である。「JRC」とは「Junior Red Cross」の略で、これまでは主に青少年赤十字として募金や献血促進などのボランティア活動を行ってきた。しかし、単発の依頼を受けて行うボランティアや、相手の見えない募金活動だけでなく、実際に人や地域に関わる継続的な活動をしたいと考えていた。

○人や地域と関わりたい

人や地域と関わる活動をしたいと思っていたが、私たちの学校では県内全域から生徒が集まっていて、部員がそれぞれ心に抱く「地域」もばらばらだった。お互いの地域のことを話すうちに、徳島県内の色々な地域について知らない、もっと知りたいと考えるようになり、夏休みには県内各地を自分たちで実際に訪れようと考え、調べ始めた。

○徳島県の秘境「三好市祖谷」に興味を抱く

徳島県内の町について調べるうちに、私たちは徳島県西部の町である「三好市祖谷」に興味をもった。「秘境」と言われる場所でありながら、今県内で最も外国人観光客が多い場所であるということを知り、祖谷に何があるのか、外国人観光客は何を見に来ているのか知りたいと考えるようになった。

○三好に行きたいが時間がかかる・情報があまり得られない

「夏休みに三好に行きたい!」という意見が部員で一致し、調べたところ、列車(徳島県では「汽車」)に乗れば簡単に行けることが分かった。しかしさすがに秘境だけに汽車代は往復すると4,460円、時間も2時間30分かかる。また、祖谷といっても広い地域の中で、現地の移動手段としてジャンボタクシーなどを借りるとさらに1人5,000円ずつ必要だと分かった。また「かずら橋」など決まり切った観光地の情報しか得られず、行ってからどこをどう見学するか意見がまとまらなかった。

○「三好市地域おこし協力隊」井上さんとの出会い

夏休みに入り、三好市のことはいったん諦めて徳島市内のマルシェの見学や鳴門観光などを行った。それと同時に自分たちの人と関わる力を高めるために、ファシリテータ養成講座や県の主催する若者フューチャーセッションに参加していた。そこで、偶然に「三好市地域おこし協力隊」の井上さんと出会い、三好市の魅力、どのような観光のコースがあるか、ただ遊びに行くだけではなく、私たちが行ってできることはないかなどについて教えてもらうこととした。すると三好には、私達が抱いていた「かずら橋」「秘境」だけではなく様々な魅力があることを教えてくれた。

○「妖怪探しの旅」

2週間～1ヶ月に1回程度三好市から井上さんに来ていただき三好市や祖谷、地域づくりなどについて勉強を進めた。そして、10月に入って井上さんから「妖怪を探しに三好に行きませんか。」という提案をいただいた。三好市は「こなきじじい」の出身地で他にもたくさん妖怪が住む地域だということのを先に井上さんから聞いていた。また、狭い集落でもめごとが起こりそうになったら妖怪のせいにして人間同士の衝突を避けるという知恵についても教えてもらっていた。だから私たちは本当に妖怪の伝説を探そうというお話なのかと思った。しかしそうではなく、三好市の西祖谷山村徳善という地区で、地域の家庭から観光・体験のコースとなりうる魅力を発見してほしいということだった。実は別の地区でも同じように各家庭で観光客のおもてなしをするためのプログラムづくりをしようとしたが失敗したとのことだった。地域の方だけでは何が観光や楽しみにつながるのかわからない。日常を離れた客観的な目で、世代も生活スタイルも違う私たちが行くことで徳善地区の方々の強い願いである観光コースづくりを一緒にしませんかという提案だった。

○徳善地区のこと

(大歩危駅でのお出迎えに参加させてもらった時の様子)

三好市西祖谷山町徳善地区は大歩危駅を中心に縦に広がる傾斜地集落である。三好市の傾斜地集落は「落合集落」が有名で昨年世界農業遺産にも登録された。全国でも次々と失われていく傾斜地集落で、徳善地区に住む人の人は47世帯85人。観光列車「四国まんなか千年ものがたり」が大歩危駅に停車し、その停車時間に徳善地区をぶらぶらする人が増えた。徳善地区の方々はせっかく訪れてくれた人をもてなそうと、列車が停車する時には駅に出てお出迎えをするなど地域全体に「観光客を迎えたい」という気持ちが強くある。しかし、「徳善地域には観光してもらおう場所がない」「出迎えた後、うまくお客さんをエスコートできない」ということに悩みをもっていた。



2 現地フィールドワーク

～三好市西祖谷山村徳善地区への妖怪発見・魅力発見合宿へ～

○徳善地区での地域の魅力発見作業

私たちは平成29年12月9日10日の2日間徳善地区で合宿を行い、地域の住民である妖怪さんたちを訪ねた。12人の部員が3班に分かれて、地域の観光活動に参加したいという方々の家を回り、取材をした。そして、1日かけて取材をした後、回った場所とそれぞれの方の思い、観光資源としての魅力について合宿場所で模造紙にまとめ、次の日には徳善地区の方々にプレゼンテーションを行った。
(徳善地区の家庭でのフィールドワークでの様子)



	妖怪ネーム	この方々の活動への思い	このお宅で体験できる活動と魅力
①	所長さん	徳善地区の魅力をたくさんの人に伝えたい。様々な場所・世代から徳善地域に来てほしい。	所長さんは徳善地区全体の観光をコーディネートできる人脈をもっている。
②	みょうが命の下西さん	自分の畑にみょうが狩りの体験をしに来る外国人観光客もいる。若い人にも来てほしい。昔のように大歩危駅周辺が賑わっている様子を見たい。	みょうが狩りをしながら、地域の方々と交流し、みょうがのおいしい食べ方を教えてもらおう。みょうが漬けを作って後日取りに行くようにする。
③	蜂蜜農家さん	今では希少となった百花蜜をたくさんの人に食べてほしい。また、野菜の収穫体験もしてほしい。	蜂蜜を付けただけでパンがすごくおいしくなる。蜂蜜を使った料理を食べる体験ができる。
④	極楽ガーデン みつえさん	94歳のみつえさんは村の昔の話をたくさん知っているの、みつえさんが育てた庭の草花を見ながらお茶を飲み、村の話を聞いてほしい。	29歳の時に村で落盤事故に巻き込まれ意識を失い、既に亡くなっている親戚たちに極楽らしき所で会ったという、滅多に聞けない話が聞ける。
⑤	盆栽忍者さん	趣味の盆栽を好きな人に見てもらいたい。昔から村のお祭りですべて使ってきたホラ貝を体験してほしい。	盆栽の鑑賞や苔玉に盆栽を植える体験をする。ホラ貝を吹く体験もできる。ホラ貝を吹くのはとても楽しい。
⑥	かづら職人 上村さん	山に入って自分でかづらを採って洗って干して編んでかごにする、というかづら体験を通して、山の生活を体験してほしい。	かづら採りの山歩き、かづらで作るかご編み体験ができる。その年に訪れた観光客が共同で編み続けて「ミニかづら橋」を作る体験も行いたい。
⑦	徳善屋敷 徳善さん	地区の名前の元となった徳善さんが守ってきた昔からのしきたりや地区の成り立ちを伝えたい。	山岳集落の原点であり歴史的建造物である徳善屋敷を訪れ、その歴史を学ぶ。
⑧	ふすまからくり (三好市指定文化財)	一列に並べた襖絵を引いたり、縦や横に回転させたりすることで背景を次々に変えていく農村舞台。	開催される日にふすまを動かす体験をしたり、ふすまからくりの舞台でイベントを行う。
⑨	ぼけマート 山口さん夫妻	徳善地区観光の中心地。徳善に住む人と訪れる人、双方が楽しめる場所になることを山口夫妻は望んでいる。	ぼけマートには食事・お土産購入・観光案内など全てがある。ぼけマートを中心に徳善が動いている。

3 フィールドワークからの考察

～フィールドワーク合宿の晩私たちが話し合ったこと～



- どの家でも私たちにとっては滅多にできない体験がたくさんある。おもてなしの気持ちが温かくて幸せな気持ちになった。
- コミュニティの力が強い。徳善地区はただの住む場所ではなく、「あの人呼んでこうか。」と声をかけたらすぐ応じてくれる仲間がいる場所。みんな信頼し合っている。
- 自給自足ができそう。実際に何人かの方は自給自足や物々交換で食べ物はほとんど買わないと言っていた。古い生活様式のように、実は縮小していく未来の日本社会の生活のモデルになるのではないか。
- 地区の人は明るくて元気で前向き。それは何でも自分の手で作ってやってきたという自信があるからだと思う。
- 可愛いものを売っている店、なんでもスピードが速くて便利、効率よく生活する。それが本当に価値があるのか。そういうものがない徳善のような場所がいつまでもあってほしい。
- 何もかも与えられて受け身の暮らしをするか、自分たちで考えて理想の暮らしを作っていくのか。徳善の人たちは自分で暮らしや町をつくっていかうとしている。

(プレゼンの様子)

徳善の方々是我们のプレゼンを喜んでくださった。お礼にと昔の映写機で映画を見せてくれた。しかし、私たちは満足できなかった。この体験を人に伝えたい。私たちがこの地区に来て丸2日、私たちぐらいの年ごろの人には1人も会わなかった。この地区がなくなるのをみすみすみ見ていたくない。

そのためには国外や県外からの観光客だけでなく、県内から週末に遊びにくるような関係が必要だ。平日は誰もいなくても週末や長期休暇には人が集まってくる。人生の何年かの部分をここで住む。そんな関わり方は同じ県内にいるからこそできることだ。私たちはそのような関わり方を自分たち高校生に提案したいと考えるようになった。

4 考察をふまえてのアンケート調査

～高校生にもっと祖谷徳善に行ってほしい～

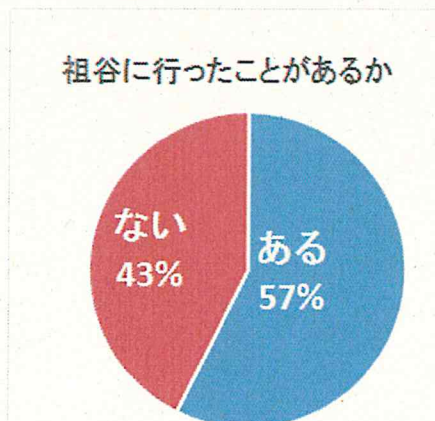
私たちは学校に帰り、祖谷徳善と高校生を結ぶ方法を考えるために、まず私たち徳島市内の高校に通っている高校生が祖谷徳善についてどのような認識をもっているのか、「観光」や「旅行」に何を求めているのか知ろうと考えた。そこで私たちの通う城ノ内高校1～3年の生徒629人にアンケートを行った。ここでは「徳善」という地域の名前はあまり知られていないため、「祖谷」という徳善を含む地域一帯の名前でアンケートをとった。

【質問1】祖谷に行ったことがあるか。

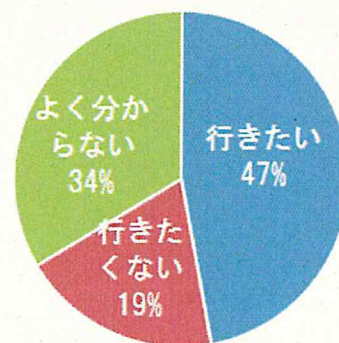
行ったことがある人が思っていたよりも少なかった。徳島県民ならほとんどの人が行ったことがある、家族と行くのではないかと考えていたがそうではなかった。

【質問2】祖谷に行きたいと思うか。

「行きたくない」という人より「よく分からない」という人がはるかに多い。祖谷に行かないのは情報がないからではないかと考えられる。

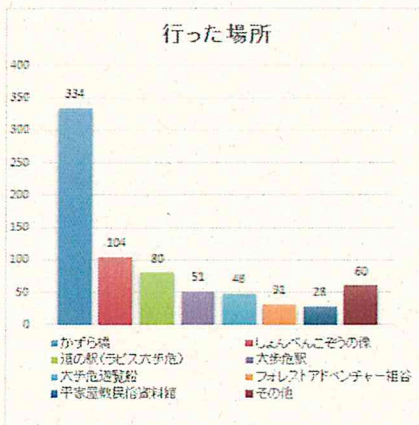


祖谷に行きたいと思いますか



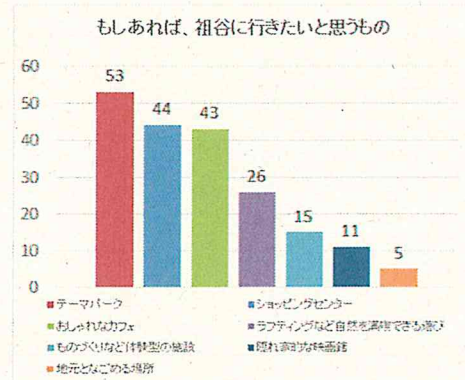
【質問3】 祖谷で行ったことのある場所はどこか。(複数回答可)

「行ったことがある」と答えた人のほとんどがかずら橋に行っており、他と比べて抜きん出ていることがわかる。祖谷についてかずら橋以外の場所を知らない人が多いと考えられる。



【質問4】 もしこれが祖谷にあれば行きたいと思う施設は何ですか。(複数回答可)

選択肢のうち、「テーマパーク」「ショッピングセンター」以外は実際に祖谷にある、組みのあるものである。高校生が求めているものが祖谷にあるということを知らせていくことが大切だと考えた。



5 活動の成果とこれからの目標

○プレゼンから観光・体験コースづくりの実現へ

徳善地区の方々是我们的プレゼンの模造紙を元に実際に観光・体験コースとして練り上げて、看板作り・パンフレット作りへとつなげてくださった。そして折に触れて「看板ができたよ。」「こんな感じでパンフレットを作っています。」と連絡をいただいた。実はこの計画は地域では4年以上話し合いを続けてきたが現実のものとはならなかったのだと後から聞いた。私たち高校生が第三者として地域に介入することで地域に活気が生まれ、「高校生が待っている」「高校生に見せよう」と励みにしてくださったそう。一方で私たちも徳善地区の方々との交流が学校生活・日常生活に励みとなった。本コンテストへの応募も「徳善にまた行きたい。」「地域での活動にお金欲しい。」という動機から始まったものだ。

(プレゼンを元に製作・設置された看板とパンフレット)



○私たちの目指すこれからの取り組み ~実現しやすいものから3つを今年の目標として~

- ①徳善地区の方々と「呼びごととインスタグラム」を開始。「呼びごと」は向かいの山に住む人に大きな声で呼びかけをしていたという地域の昔からの風習である。その呼びごとのように徳善の方から写真を送ってもらい、それに私たちが言葉やハッシュタグをつけて世界に発信する。
- ②「とくしまマルシェ」や学校の文化祭などでの観光案内所の運営。地域の人がつくった観光・体験コースを徳島市内の人が多く集まる所で案内する。
- ③「マチアルキ AR」の設置。拡張現実 AR を徳善に設置した看板のコンテンツとして追加すると、看板から地域の情報や体験活動の写真・動画、地域の人からのメッセージなど読み取ることができるようになる。このプログラムは同じ三好市の小学校が徳善に続く街道沿いにも設置しており、これが実現すればさらに協働の輪が広がり、観光客の利便性も高まる。この設置にはお金が10万円以上かかる。本コンテスト応募の動機ともなった最大の今年の目標である。